

第2節 常盤構内の立会調査

1 工学部夜間照明装置および防球ネット設置に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査期間 平成2年2月21日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約2㎡

調査結果 工事は、常盤構内の北西部に位置するグラウンドの南縁を除く周囲に、防球ネットを新営し、あわせて夜間照明装置を設置するものである。調査は、支柱となるコンクリートポールの埋設地点26ヶ所のうち4ヶ所を選定して行った。

北縁では、中央部分各2ヶ所について立会った。層厚15～20cmのグラウンドの真砂土の直下が明赤褐色粘質土（Hue5YR5/8）の地山であった。

東縁では、中央部よりやや北側部分を立会ったが、層厚・層順とも北縁と大差ないものであった。

既存のグラウンド面は、西縁を除いて皿状にカットされており、周囲には土堤状の高まりが残存している。法面を観察すると、頂部はグラウンド面より約80cm上位にあり、土堤状の高まりの約20cm下位には明赤褐色粘土の地山が確認できた。したがって、グラウンド内部は西縁を除いて少なくとも60cm以上削平されていることになり、グラウンド東半部では、埋蔵文化財が存在していたとしてもすでに消滅している可能性が高い。

西縁では、南端部付近を立会った。層厚15～30cmのグラウンドの真砂土の直下には、地山の削平による客土が約30cmの厚さに堆積し、その下位には構内造成時の埋め土が少なくとも層厚約80cm以上搬入されている。地山は、現地表面から約1.4m掘り下げた段階でも検出されず、グラウンド西半部は東から西へ下降する丘陵の落ち込みを造成によって平坦化したものと考えられる。 (河村)

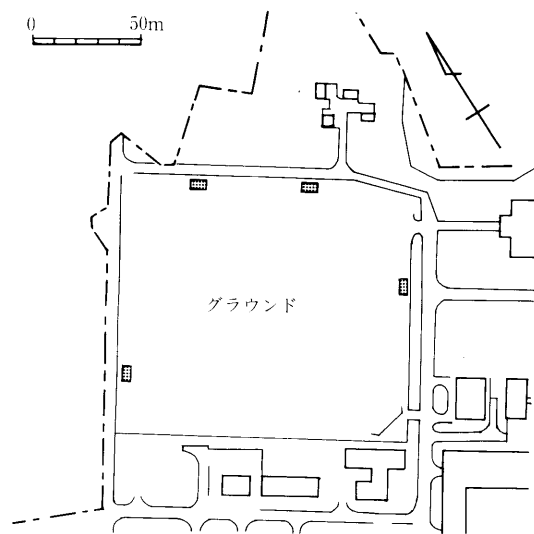


Fig. 41 調査区位置図

2 工学部記念植樹に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査期間 平成2年3月22日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約2.5㎡

調査結果 植樹地点は、キャンパス中央部の化学工学科棟北側、西側の情報処理センター南側、および図書館南側の計3ヶ所が予定されていた。掘削深度は現地表面から約70cmで、前二者については、過去の調査結果を踏まえて埋蔵文化財に直接影響がないため調査対象から除外した。

図書館南側の前庭では、径1.8mの範囲の掘削に立会った。土層は、上位から、構内造成時の埋め土、旧耕作土、明赤褐色粘質土(Hue5YR5/8)の地山の順に堆積している。地山は常盤構内で普遍的に見られる花崗岩のバイラン土で、現地表面から約50cm下位で検出された。遺構は検出していない。

図書館西半部の増築部分では、地表面から層厚60~70cmの構内造成時の埋め土の直下¹⁾が地山であった。また、常盤構内の現況が北から南へ四段にわたって造成されていることから、図書館周辺では、すでに構内造成等によって大規模に地山が削平されおり、埋蔵文化財が存在していたとしてもすでに消滅している可能性が高い。

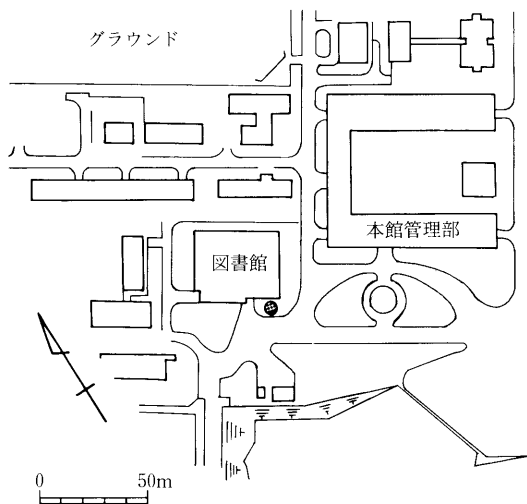


Fig. 42 調査区位置図

なお、各堆積層からの出土遺物はなかった。(河村)

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「学部(常盤構内)工学部図書館増築に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年)。